

知事定例記者会見記録（抄）

日 時／平成26年7月31日（木）
15：30～15：55
場 所／記者会見室
記者数／23名（テレビカメラ1台）

【知事からの話題】

（略）

【記者からの質問】

1～3（略）

4 日本脳炎ワクチンについて（1）

5～6（略）

7 日本脳炎ワクチンについて（2）

8～10（略）

【知事からの話題】

（略）

【記者からの質問】

（略）

（朝日新聞）

日本脳炎の予防接種のことについて、ちょっとお伺いしたいんですけれども、今、日本脳炎予防接種は子どもの分については、北海道だけ感染リスクが低いということで、しなくていい、必要がないという地域として道が指定しているんですけども、今これで主に小児科医の先生方からですね、やっぱり他の府県と同じように子どもにとっては必要だということで署名運動が展開されています。今日が締切でまもなく知事のほうに署名簿が寄せられて要望が上がってくると思うんですけども、これに対して知事はどう対応されるのかということのお考えをお聞きできればと思います。

（知事）

実はこの話の問題提起を長瀬（北海道）医師会会長から私がお受けしたのは結構前でありまして、いつだったかというのはちょっと記憶にないのですが、直ちに事務方に指示をして、現状がどうなのか、今のままでいいのかどうか検討しようということをしてきた経緯はあります。そういった中で、北海道医師会のほうで署名活動などをやっておられるわけでありまして、もとより（他の地域と比較して）自然環境がちょっと違うということで、北海道のほうが（日本脳炎の）発生の確率が少ないというのは事実なのかもしれませんが、ただ、これだけやはり人の出入り、行き来というものがある中で、ご家族ともどもの転勤など、いっぱいおられると思うんですよ。

それで、私はやはり北海道医師会会長からの問題提起はそのとおりだと思いますし、現に、私ども道のほうで感染症流行調査専門委員会というものを開催しておりまして、今

月開催したこの委員会においてもさまざまな検討を行っておりまして、できれば今年度中にこの委員会としての考え方を、当然のことですけれども、世の中の流れの中でやはり、これは方向として、北海道においても接種をすべしというふうな専門家の方々のご報告になろうかと思えますけれども、そういったことの取りまとめをしていただいて。ただ、実際の接種（の実施主体）は市町村で、これは準備も必要かと思うのですね。特に札幌市とか旭川市とか函館市とか、人口規模の大きいところほどやはり周知なり準備というのが必要だと思いますので、専門家の方々の今年度中のいろいろな観点、角度からのご議論、そして報告書をまとめていただいた後、できる限り早いタイミングでそれが実施できるように道内市町村と議論、調整を深めていきたいと、これが私の今段階のスタンスであります。

(略)

(北海道新聞)

先ほど出た日本脳炎の予防接種の関連で追加してお尋ねしたいんですけれども、専門家の方々の議論が今年度中にまとまるということで、この北海道だけは予防接種をしなくていいという地域に、今、指定されている形なんですけれども、この地域指定を外すのか否かという判断をいつ頃される予定なのか、知事としては現段階でどのようにお考えなのかお聞かせください。

(知事)

先ほどの繰り返しになりますけれども、専門家のご意見の取りまとめを今年度中にやっていただいて、そして、実際に（予防接種を）実施する主体は市町村でありますので、その調整を踏まえた上で、われわれとして判断をしていくということになります。

(北海道新聞)

今年度中に判断されると、報告書が出るとなると、（知事の）任期との関わりも出てくると思うんですけれども、例えば、任期中にこうした判断を知事がされる可能性があるのか、それとも次の方に引き継ぐような形になるのか、どちらになるのでしょうか。

(知事)

それは、組織としての継続性の問題でありますので、私個人がやっているかどうかというのとは関係ないのではないのでしょうか。

(略)

※ この文章については、重複した言葉づかい、明らかな言い直しがあつたものなどを整理し、作成しています。

記録作成：総合政策部知事室 広報広聴課 報道グループ]